

2008年9月3日  
日本郵政株式会社

大久保利通の書状箱、森鷗外の手紙…  
初公開含む 1,000 点超の手紙のかたち。  
**特別展「ニッポンノテガミ」の開催**

会期：2008年10月4日(土)～11月3日(月・祝)／場所：通信総合博物館（1階特別展示場）

通信総合博物館（所在地：東京都千代田区大手町 2-3-1）では、2008年10月4日（土）から11月3日（月・祝）まで、特別展「ニッポンノテガミ」（主催：日本郵政株式会社郵政資料館）を開催します。

日本の手紙は、季節感あふれる文体のほか注目すべきはその豊かなデザイン性にあります。古くは和歌を送る際に文を枝に結ぶ、香りを忍ばせるといった趣のある習慣に合わせて、文をしたためる和紙にも繊細で多様な仕立てが生まれました。その後、封筒や便箋のデザインにも花鳥風月や春夏秋冬の風情が盛り込まれ、送り手の「心」を伝える情緒ある心遣いを表現してきました。

そんな日本の手紙に残る美しさを再認識していただきたいと企画したのが本展です。



▲華やかなデザインの江戸時代の手紙グッズ

豊かな手紙文化が花開いた江戸時代、爆発的な絵はがきブームが到来した明治時代の手紙を中心に、現代までの手紙 1,000 点超の当館所蔵資料(※)をもとにそのデザインの変遷などを振り返ります。

## 特別展初公開

### 大久保利通の書状箱



これは、1871(明治4)年に日本初の切手「竜文切手」を使用した「大久保利通の書状箱」です。

近代郵便制度が始まった当時の日本で、書状に切手を貼って送付するスタイル以外に、書状を入れて運ぶ箱に切手を貼っていたことを伝える歴史的価値の高い貴重な資料であり、このたびの展示が初の特別展公開です。

本展ではこのほかの資料を含め、今では驚きの自由な手紙のかたちを目にできる機会となります。

## 展示概要(※)

江戸時代の絵封筒や絵半切（便箋）、矢立などの文具、明治・大正の絵はがきのデザインのほか、森鷗外、高村光太郎、鍋木清方といった各時代を彩った芸術家の文章をじっくり楽しんでいただく展示となります。そのほか、「葉（しおり）型の絵はがき」といった珍しい資料から、切手や郵便マークをデザインした昭和初期の着物・帯まで「手紙」にまつわる幅広い資料を公開いたします。

### ■ イベント開催概要（参加費無料／当日受付／会場：1階展示場）

#### ● 「絵封筒」ワークショップ

切手などから想像を膨らませて封筒に絵を描く遊び。

〔日時〕10月18日（土）13:00～16:00 〔講師〕内尾夕子氏（イラストレーター）

#### ● 「字手紙」ワークショップ

墨などを使って文字を絵画のように表現した手紙の講座。

〔日時〕10月25日（土）13:00～16:00 〔講師〕登坂和雄氏（日本絵手紙協会公認講師）

#### ● 手紙雑貨フリマ

「手紙」をテーマにした手作り雑貨のフリーマーケット。約20店舗が出店します。

〔日時〕11月2日（日）、3日（月・祝）9:00～16:30

#### ● 手紙体験コーナー

巻紙や絵はがきなど、さまざまなスタイルで自由に手紙を書くことのできるコーナーです。

〔日時〕会期中毎日

※全てのイベント内容等詳細は電話でご確認ください。

以上

## 通信総合博物館(ていぱーく) 概要

住所：〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-3-1

アクセス：地下鉄「大手町駅」下車 A4・A5 出口すぐ

※東京メトロ：丸の内線、半蔵門線、東西線、千代田線

※都営三田線

JR「東京駅」下車丸の内北口より神田方面へ徒歩10分

入館料：個人 大人110円／小・中・高校生50円

団体（20名以上）大人50円／小・中・高校生25円

（小・中・高校生のみ日曜・祝日は無料）

休館日：月曜休館（月曜祝日の場合は火曜休館）



通信総合博物館は1902(明治35)年、万国郵便連合(UPU)加盟25周年記念祝典行事の一環として誕生した「郵便博物館」から始まり、100年以上の歴史を誇る博物館です。

当館は、日本で唯一の「情報通信関係の総合博物館」であり、関係資料の収集、保存、展示、調査研究などの活動を通じて郵政・電気通信・放送の各事業の啓発及び普及を図ることを役割としています。現在は、日本郵政株式会社・東日本電信電話株式会社(NTT 東日本)・日本放送協会(NHK)が共同で運営しています。

### 【お問い合わせ先】

日本郵政株式会社 郵政資料館

電話：(03)3244-6821

担当：井村、本間